

- 問1 弥生時代に現れた環濠集落は、それ以前の縄文時代の集落とは大きく異なる社会背景を持っています。このような形態の集落が全国的に出現した理由として、最も適切な説明はどれですか。(2021年 愛知公立入試 類似)
1. 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため
  2. 大陸との交易で得た貴重な青銅器や鉄器を、雨風や火災から物理的に保護する必要が生じたため
  3. 大規模な洪水被害から住居を守るために、集落の周囲に巨大な排水路を設ける必要があったため
  4. 渡来人から伝わった仏教の寺院を建立するにあたり、聖域と世俗の居住区を明確に区別するため
- 問2 弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何とよいか。(2016年 奈良公立入試 類似)
1. 石包丁
  2. 石鍬
  3. 打製石斧
  4. 石匙
- 問3 弥生時代の遺跡からは、青銅器と鉄器という二種類の金属器が発見されています。鉄器が農具の刃先として普及したことが、当時の社会に与えた影響として最も適切な説明を選びなさい。(2023年 大阪公立入試 類似)
1. 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。
  2. 農具が重くなったことで、小規模な家族単位での農業が不可能になった。
  3. 青銅器よりも希少価値が高かったため、王の権威を示すための宝物としてのみ扱われた。
  4. 石器に比べて加工が簡単だったため、各家庭で容易に自給できるようになった。
- 問4 3世紀の中国(魏)の歴史書には、当時の日本の様子が記述されています。邪馬台国の女王である卑弥呼が、魏の皇帝から授かった称号と品物の組み合わせとして正しいものはどれですか。(2023年 岩手県公立入試 類似)
1. 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡
  2. 漢委奴国王の称号と、金印
  3. 倭王武の称号と、鉄剣
  4. 征夷大將軍の称号と、刀や鎧
- 問5 中国大陸や朝鮮半島から九州北部へ伝わった稲作が東日本へと広まった時代、収穫を祈る祭りが重要視されるようになりました。この時代に祭りの道具として作られた、つりがねのような形をした青銅器を何と呼びますか。(2023年 長野県公立入試 類似)
1. 銅鐸
  2. 打製石器
  3. 縄文土器
  4. 埴輪
- 問6 弥生時代の遺跡から発掘された人骨の中には、石の鍬(やじり)が刺さっていたり、鋭利な刃物によるものと思われる殺傷跡が残っていたりするものが多数見つかっています。このような人骨の発見から、当時の社会状況について推測されることとして最も適切なものはどれですか。(2022年 沖縄公立入試 類似)
1. 水田稲作の普及にとまぬい、土地や水をめぐる集落間の争い(戦い)が激しくなったこと
  2. 青銅器である銅鐸や銅鏡を、死者の権威を示すための副葬品として埋葬し始めたこと
  3. 狩猟と採集を中心とする生活の中で、獲物を奪い合うための小規模な小競り合いが増えたこと
  4. 古墳と呼ばれる巨大な墓を造るために、強制的な労働によって多くの犠牲者が出たこと
- 問7 3世紀頃の倭国において、邪馬台国を中心に30ほどの国々をまとめ、中国の魏から「親魏倭王」の称号や金印を授けられた人物は誰ですか。(2020年 埼玉県公立入試 類似)
1. 卑弥呼
  2. 推古天皇
  3. 持統天皇
  4. 北条政子
- 問8 弥生時代、土を耕すための農具や敵と戦うための武器には、青銅ではなく主に「鉄」が材料として選ばれました。このように鉄器が実用品として普及した理由として、最も適切な説明はどれですか。(2018年 大阪公立入試 類似)
1. 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。
  2. 鉄は青銅よりも融点が低く、当時の未熟な技術でも簡単に大量生産することができたから。
  3. 鉄は日本列島で独自に発見された金属であり、大陸から輸入する必要があった青銅よりも安価だったから。
  4. 青銅は非常に重く持ち運びが困難だったため、軽量な鉄が実用的な道具として好まれたから。
- 問9 3世紀に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏へ使節を送り「親魏倭王」の称号や銅鏡などを得た背景について、当時の日本の状況を踏まえた説明として正しいものはどれですか。(2021年 茨城県公立入試 類似)
1. 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため
  2. 魏の軍勢力を直接日本に呼び寄せ、反対勢力を武力で一掃して一気に領土を拡大しようとしたため
  3. 中国が日本に対して朝貢を強制し、従わない場合は貿易を禁止すると通告してきたため
  4. 日本の優れた絹織物を中国全土に普及させ、大陸での市場独占を皇帝に認めてもらうため
- 問10 弥生時代の食生活の変化をまとめた資料では、この時期に稲作が広まったことが記されています。これと同じ時代、1世紀の日本の様子について述べた、中国の歴史書『後漢書』東夷伝の内容として正しいものを選びなさい。(2022年 広島公立入試 類似)
1. 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。
  2. 卑弥呼が魏の皇帝に使いを送り、「親魏倭王」の称号と金印を授けられた。
  3. 倭の五王が中国の南朝に使者を送り、朝鮮半島での軍事的地位を認めさせた。
  4. 推古天皇の使者として小野妹子が隋に渡り、対等な外交を求めた。
- 問11 佐賀県で発見された弥生時代の代表的な遺跡について述べた文として、正しいものはどれか。この遺跡は、大規模な堀や土塁を巡らせた集落の跡として知られている。(2026年 大阪公立入試 類似)
1. 吉野ヶ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。
  2. 登呂遺跡では、弥生時代の水田跡や木製農具が静岡県で発見されている。
  3. 三内丸山遺跡では、縄文時代の大規模な定住集落跡が青森県で確認されている。
  4. 唐古・鍵遺跡では、奈良県において弥生時代の環濠集落や多量の木製品が見つかっている。
- 問12 稲作の伝来によって食料を蓄えることが可能になると、社会の仕組みが大きく変化しました。土地や水をめぐる争いが発生し、富や権力を持つ者が現れたことで生じた、当時の社会の変化として正しい説明を選びなさい。(2023年 長野県公立入試 類似)
1. 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。
  2. 人々は定住をやめ、マンモスを追いかけて移動する生活に戻った。
  3. 朝廷が全国の人々を戸籍に登録し、すべての人に一律に口分田を支給した。
  4. 身分差がなくなり、すべての村人が平等に食料を分配する仕組みが完成した。
- 問13 佐賀県に位置し、周囲に深い堀や土塁を巡らせた「環濠集落」の跡が発見された、弥生時代を代表する遺跡の名称を選びなさい。(2022年 三重公立入試 類似)
1. 吉野ヶ里遺跡
  2. 三内丸山遺跡
  3. 岩宿遺跡
  4. 登呂遺跡

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1 稲作による生産力の向上で蓄えが生まれた結果、土地や水をめぐる集団間の争いが激化したため	本格的な稲作の開始は、人々に安定した食料をもたらしましたが、同時に「富の蓄積」と「貧富の差」を生み出しました。これにより、条件の良い耕作地や農業用水を独占しようとする集団同士の対立（戦争）が始まりました。自分の集落を守るために防御機能を備える必要があったことが、環濠集落が普及した最大の背景です。
問2	答え 1 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問3	答え 1 土地の開墾や耕作が容易になり、食料である米の生産力が向上した。	鉄は青銅よりも非常に硬いため、木製の農具の先端に装着することで、硬い土を掘り起こしたり森林を切り拓いたりすることが可能になりました。これにより耕作面積が拡大し、農業の生産性が飛躍的に高まりました。一方、祭祀用として重宝されたのは、鉄器ではなく主に青銅器（銅鏡や銅鐸など）の方でした。
問4	答え 1 親魏倭王の称号と、金印や銅鏡	中国の歴史書（魏志倭人伝）によると、3世紀に邪馬台国の卑弥呼が魏へ使いを送り、朝貢を行いました。その際、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号とともに、その証となる金印や100枚の銅鏡などの返礼品を授けられたと記されています。なお、1世紀（紀元57年）に後漢の光武帝から金印を授かったのは奴国の王であり、混同しないよう注意が必要です。
問5	答え 1 銅鐸	稲作が普及した弥生時代には、青銅器の製造技術も伝わりました。銅鐸は、主に豊作を祈るための祭祀用具として使われた特徴的な遺物です。一方、打製石器や縄文土器は稲作普及以前の縄文時代に主に使われていたものです。
問6	答え 1 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと	弥生時代に始まった水田稲作は、安定した収穫を得るために良好な土地の確保や用水路の管理が不可欠でした。これにより、資源をめぐる集落同士の利害対立が生まれ、人骨に残された殺傷跡や頭部のない人骨は、武力を用いた激しい争い（戦い）が日常的に行われていたことを物語っています。縄文時代にはこうした殺傷跡のある人骨は稀であり、生産活動の変化が社会構造を大きく変えたことを示しています。
問7	答え 1 卑弥呼	3世紀の日本について記した中国の歴史書『魏志倭人伝』によると、卑弥呼という女王が邪馬台国を統治していたとされています。彼女は魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、自らの権威を国内に示すとともに、外交的な地位を確立しました。
問8	答え 1 鉄は青銅に比べて硬度が高く耐久性に優れていたため、衝撃の加わる作業や戦闘に適していたから。	鉄は青銅に比べて非常に硬く、刃先を鋭く研ぐことができるため、木を伐採したり土を掘り起こしたりする農具、あるいは高い殺傷能力が求められる武器に最適でした。対して青銅は、鉄に比べると柔らかく脆いため、激しい衝撃が加わる実用的な道具には不向きであり、主に祭祀用の道具（祭具）としてその価値を見出されました。
問9	答え 1 国内の諸勢力が争う中で、中国という大国の後ろ盾を得ることで自らの権威を高める必要があったため	当時の日本（倭）は、多くの小国が対立し合う「倭国大乱」を経て、女王卑弥呼による連合体である邪馬台国が形成された時期でした。依然として国内には対立勢力が存在していたため、卑弥呼は圧倒的な文化と武力を持つ魏の皇帝から「倭王」として認められることで、自らの統治能力と地位を盤石にしようと考えました。
問10	答え 1 倭の奴国の王が後漢に使いを送り、光武帝から金印を授けられた。	紀元1世紀、現在の福岡県付近にあったとされる「奴国」の王は、後漢の光武帝に使者を送りました。その事実は、江戸時代に志賀島（福岡県）で「漢委奴国王」と刻まれた金印が発見されたことによって裏付けられています。3世紀の卑弥呼（魏志倭人伝）、5世紀の倭の五王（宋書）、7世紀の遣隋使（隋書）など、中国のどの王朝の時代に、誰がどのような目的で交渉したかを区別することが重要です。
問11	答え 1 吉野ヶ里遺跡では、外敵を防ぐための深い堀を巡らせた環濠集落の跡が確認されている。	吉野ヶ里遺跡は佐賀県に位置し、弥生時代の全期間を通じて存在した国内最大級の環濠集落です。二重の堀や物見櫓、V字状に深く掘られた溝などが確認されており、当時の社会に争いがあったことを示しています。奈良県の唐古・鍵遺跡と場所を混同しないよう注意が必要です。
問12	答え 1 各地に「クニ」と呼ばれるまとまりができ、それを支配する「王」が現れた。	稲作によって余剰生産物が生まれると、蓄えの多い者と少ない者の間で貧富の差が生じました。また、水資源を管理するリーダーが権力を持つようになり、小さな集団が統合されて「クニ」が形成されました。それらを統治する「王」が登場したことは、中国の歴史書にも記されています。なお、戸籍による口分田の支給は、後の律令国家の仕組み（班田収授の法）にあたります。
問13	答え 1 吉野ヶ里遺跡	弥生時代には、稲作に適した土地や水をめぐる争いが増えたため、防御機能を備えた集落が作られるようになりました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠（堀）や物見やぐら、高床倉庫などが確認されており、当時の社会の様子を今に伝える極めて重要な遺跡です。なお、三内丸山遺跡は青森県の縄文時代の遺跡、岩宿遺跡は群馬県の旧石器時代の遺跡です。